

第25回豊田市市政顧問会議＜公表用＞

【日 時】令和7年1月30日（木）午後3時～午後4時50分

【場 所】豊田市役所 南73委員会室

【出席者】

会 長	奥野 信宏	（公益財団法人名古屋まちづくり公社 名古屋都市センター長）
副会長	三宅 英臣	（豊田商工会議所 会頭）
委 員	阿垣 剛史	（豊田市区長会 会長）
委 員	石川 尚人	（あいち豊田農業協同組合 代表理事組合長）
委 員	大橋 一之	（愛知県労働者福祉協議会 豊田支部長）
委 員	松山 洋司	（トヨタ自動車株式会社 総務・人事本部 副本部長）
市 長	太田 稔彦	
副市長	辻 邦恵	
副市長	鈴木 学	

【次 第】 1 開会
2 新任委員あいさつ
3 会長あいさつ
4 市長あいさつ
5 意見交換
6 閉会

【意見交換テーマ】

・社会環境変化を踏まえた今後の市政運営について

＜主な意見＞

・現在、中部圏広域地方計画の策定が進んでいる。新たなプロジェクトは打ち出されていないが、中部圏には立派な道路計画があり、順調とまでは言えないが進んでいる。公共事業はムダという風潮があるが、災害時には非常に注目される。砂防も同様。必要な事業は進めるべき。

- ・地域づくり、コミュニティに関して、「平時の楽しみ、有事の強靱化」と呼んできた。日頃のつながりが有事の際には大切。高齢化による地域の弱体化が急速に進んでいる印象があり、行政支援の拡充も検討していくべき。
- ・安心安全について2点。①南海トラフへの対応を含めて災害への備えが重要。リスクの高い地域には踏み込んだ対応をすべき。②交通死傷者はゼロを目指して引き続き取り組んでいくべき。
- ・人口減少について。このまちの良さをターゲットにいかにか伝えていくかが重要。PRの強化を検討すべき。
- ・ものづくり人材確保という視点で SENTAN などの取組は重要。カーボンニュートラルに向けた水素活用なども推進していくべき。
- ・豊田市においても、出生は10年で3割減少している。外国人労働者の増加も目立つ。岡崎では、外国人を地域として受け入れる検討部会が立ち上がり、民間企業も参加しているようであり、参考になるのでは。
- ・豊田市はクルマのまち。その反面、クルマがなくなった場合の生活の足の確保は引き続き需要。
- ・担い手について。民間はまずは自分の中でやれることをやる。事業の見直し、統廃合、多能工化などの例があり、社会全体でも同様に考えていくことが必要。
- ・産業の国際競争について。市内の工場も古くなってきているが、脱炭素と言っても投資ができない実態もある。今後のEVの方向性などが見えないと身動きがとれない状況がある。
- ・AIについて。例えば無人運転では、駅からスタジアムまではニーズも高い。思い切って実施できないか。
- ・カーボンニュートラルについて。これは国の方針として進めてきているものであり、引き続き取組を推進していくべき。民間ではLED化などやれることは既にやっているという認識だが、一般住宅はまだまだという印象。
- ・地域の高齢化が進み、葬儀も多い。集落が無人化してしまう危機感がある。山間部の水田も保全も課題。地産地食、とよた産をみんなでもっと食べるなどの運動を広げたい。担い手になった人がきちんと食べていける農業にしていけることが必要。
- ・気候変動の農業への影響について。高温化・少雨は果実を大きくしない。単価の減につながる。高温で米が白くなり等級が下がることも問題。品種変更も検討するが、簡単ではない。

- ・農地の規制緩和は検討できないか。条件がよい場所でも手が付けられず、条件のよい農地も徐々に荒れてきている。農業に関する機械が非常に高く苦しい。
- ・車の自動運転について、まずは社会課題である山間部の移動手段として寄与すべきものと捉えていたが、都市部での実験が目立つ。カーシェアも同様で、今後の取組方は検討が必要。
- ・車の乗り合いサービスの話題もあるが、その担い手も問題。健康なのに働いていない人が実はたくさんいる。そうした人をいかに活用していくか。
- ・山間部は、大きな道路沿いは元気に見えるが、道路の1本奥に入ったところが地域の実態。そうした実態をもっと知ってもらうことが必要。
- ・社会のあり方として、70～100年先を見てどういった手を打つか。まずは目の前の少子化対策、その後は7,000～8,000万人程度で収束するのではないかと個人的に予測、その規模でどういった国にしていくか。
- ・県内の主要都市では駅周辺開発が進む事例もあるが、若い女性がお茶をすたくなるまちにはなっていないところもある。豊田の駅周辺は以前よりとても良くなっている。そうした広域の視点を持った特色あるまちづくりを推進すべき。
- ・AIについて。その利活用がかなり進んだとは言えないと思うが、日常的に使用している印象。
- ・民間の人とAIについて話す機会があった。定着はしていないが、使うとすごい、という声が多い。その性能は驚くほど進歩していて、修士論文などでの悪用対策は課題。

(以上)